



コープリハビリテーション病院・老健あかねだより

コープリハビリテーション病院は、川崎医科大学附属病院と倉敷中央病院との連携病院です。

「タイから帰国しました！」

タイから学ぶ

地域住民の健康維持

倉敷中央病院 救急科医長 田村 暢一朗先生

皆様、お久しぶりです。昨年2か月間、コープリハビリテーション病院の回復期リハビリ病棟で研修しました倉敷中央病院 救急科の田村です。リハビリ研修後しばらくしてタイ王国北東部の中核コーンケン病院外傷センターで6か月臨床研修を積みました。



田村医師が研修したタイの総合病院

【タイの医療事情】 WHO報告ではタイは人口10万人あたりの交通事故死亡者数が世界第2位でして、交通事故が社会問題となっています。若年のバイク事故による頭部外傷がその中でも多く、



地元メディアから取材を受ける田村医師

事故後寝たきりになってしまいう若年患者が毎日のように発生しています。タイ王国の生産性にとっても国家問題です。タイは日本ほど医療予算が多くないため、長期入院や入所できる病院や施設は数少なく、家族が自宅でこのような患者さんをケアしているのが実情です。そんな制約が多い中で、病院はコストを意識し、患者さんを集約することで医療レベルを維持する様々なシステムを作っていました。中でも印象に残った「オーショーシヨ」というシステムをご紹介します。

【ボランティアが地域で予防活動】

タイは地方で特に病院が少なく、救急車を呼んでも到着にかなり時間がかかります。そこでタイ政府は各地域住民の代表を、健康ボランティアに認定しており、このボランティアのことを「オーショーシヨ」と呼んでいます。各地域の病院や自治体は定期的にオーショーシヨを対象にした、救急初期対応や栄養指導などの講習会を開催し彼らを教育しています。完全ボランティアで無報酬です。地域住民は何か健康に問題があるとオーショーシヨに相談し、地域住民が救急車を要請すれば、オーショーシヨが救急車の到着までの初期対応を行います。

【日本の地域包括ケアシステムに投影】

このオーショーシヨというシステムを目にし、私は現在



健康や予防の視点からタイを紹介する講演にコープリハ会場は大盛り上がり

日本が推し進めている「地域包括ケアシステム」と似ているのでは？と思いました。ご存知の方も多いと思いますが、この「地域包括ケアシステム」とは重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、地域住民と医療、福祉が「一丸」となりすすめていくシステムのことで、オーショーシヨを見ても、私は地域包括ケアシステム実現のためには「医療」は地域の中に入っていくことが大事なのでは？と思っていました。しかし、オーショーシヨを見てからは、予防をふくめた健康を本場の意味で地域の隅々までしみこませるのは、医療ではなく、地域住民の方々自身であり、医療はサポートができるに過ぎないのではないか？と思うようになりました。

【ならば倉敷では？】

現在、日本は高齢化社会真っ只中であり、実際に介護が必要となる前の介護予防が重要であると言われています。各



地域連携の立場から質問する田辺相談室長と医療体制を学びたい盛りの事務の三井さん

自治体にも介護予防センターが設けられ、体操などの指導を受けられます。しかし、自治体だけではこのような活動は不十分です。地域住民の方々がこのような取り組みに主体的に関与したり、またそれ以外でも健康に関する話題をお隣さんやお友達と話し合ってもらったりすることは、地域の健康維持にとって非常に重要なことだと思っています。コープリハビリテーション病院のリハビリスタッフは医療生協の支部や班などで転倒予防体操の指導をおこなっています。また倉敷市を中心に24病院が協力し健康をテーマにした講演会「わが町健康プロジェクト」も定期的に開催しています（事務局は倉敷地域医療連携室内）。お時間があればこのような会に参加いただき、自分だけでなく周りの方々とも自分たちの健康について考え、話し合う機会を持っていただければと思います。



タイ王国の地元自治体と健康ボランティア「オーショーシヨ」代表の皆さん

入院や入所に際して、部屋代はいただいていません。

研修医・医学生の皆さんが リハビリ医療を体験



水島協同病院 OB でもある先生方とコープリハ医局で歓談

【現場で他科との違いに触れる】

例年通り医局で先輩医師とオリエンテーション、病棟回診に参加、医療情勢の講義をしました。今年も病棟回診の密度を上げるため全患者さんリストを配りました。そこに複数の病気が影響する生活の支障、取り巻く環境の影響を考慮したリハビリ要領が記されています。通常の検査では絶対見えない暮らしの課題まで把握する、それがリハビリ医療の姿勢だと強調しました。さすがみなさん優秀です。専門用語をスマホ辞書で調べながらベッドサイドを熱心に回られました。

【知識だけならAI】
近い将来、診断や治療方法の選択は間違いなく医師より人工知能(AI)の方が優秀になるでしょう。その



患者さんごとに違う課題を看護・リハビリ・医療ソーシャルワーカー・栄養士などが共有する現場を視察(回復期リハビリテーション病棟の総合回診にて)

栄養科 新リーダー紹介



明美 4月より、栄養科の副主任をさせていただきます。

これまででは老健あかねの栄養士として、利用者さんの栄養管理を行っていましたが、この度、コープリハ

ビリテーション病院の担当となりました。思いもよらない任命に不安もありますが、先輩方の協力を頂きながら、成長していきたいと思えます。

患者さん、入所者さん、通所利用者さんそれぞれの疾病や嚥下の状態に適した

れでも高齢者は病気を複数抱えたまま不自由を我慢し誰かの世話になって暮らしているかもしれない。医師の役割は患者さんの体に病気と折り合いをつけさせ、患者さんのベストな暮らし方を手伝うのが使命です。それができる総合的な人間力を今日訪れた新しい先生方と医学生さんが意識してもらえればと思います。

コープリハビリテーション病院 院長 鍛本真一郎

おいしい食事・喜んでいただける食事を提供し、治療の役に立てるよう努めていきたいと思えます。

また、これまで同様、衛生管理を徹底した食事提供を調理スタッフと協力して行っていきたいと思えます。よろしく願います。

コープリハビリテーション病院 栄養科 副主任 井上 明美

リハビリの新人発表



左から 佐藤美波、島山夏実、江田百合都

5月11日、県内の医療生協のリハビリ新人発表に参加しました。

(佐藤み) 腰痛により臥床傾向だった症例への離床プランや自宅復帰に向けての家族対応について発表しました。リハビリ介入時以外の患者様の様子にも目を向けることやご家族の在宅受容への配慮について重要性を学びました。(島山) 動作能と見当識低下がある患者様に対して、段階的に目標を刻み一つ一つ達成していききました。その結果起居可能となり、退院後希望

であった友人と買い物に行く事が可能となりました。(江田) 脊髄損傷の患者様に対して気管切開と経鼻栄養離脱へのアプローチを行い、自宅へ帰られた症例について発表しました。多職種と協力しリハビリを行うことの重要性を学ぶことができました。

発表を行うにあたり、医師や先輩方からご指導いただきながら改めて患者様について深く考えることが出来ました。今回学んだ事を生かし、より一層精進いたします。コープリハビリテーション病院 理学療法士 佐藤 美波 理学療法士 島山 夏実 言語聴覚士 江田百合都

新入職員紹介



コープリハビリテーション病院 5階病棟 看護師 只重 祐丘



コープリハビリテーション病院 5階病棟 看護師 植田 知恵



老健あかね 管理栄養士 市原 優衣



コープリハビリテーション病院 調理師 武田 蘭



老健あかね 調理師 田鍋 芽衣



○お問い合わせ先
倉敷医療生活協同組合
コープリハビリテーション病院
老人保健施設 老健あかね
TEL 086-444-3212 (代表)
受付時間 平日 9:00~16:30
土曜日 9:00~12:00
(日祝・年末年始を除く)
〒712-8057
倉敷市水島東千鳥町 1-60
ホームページ
http://coopreha.jp/
メールアドレス
info@coopreha.jp
広報委員会
発行責任者 笹舘 勝人

診療表					老健あかね [086-446-6541]	
コープリハビリテーション病院 外来受付時間 8:30~12:00 [086-444-3212]					訪問リハビリ	通所リハビリ
外来	装具 外来	歯科	短時間 通所 リハビリ	短期集中 健アプ 教室		
午前 9:00~ 12:30	14:30~ 15:00	午後	9:00~ 16:50	9:30~ 11:00	○	○
月			○		○	○
火	渡辺 (予約制)	(予約制)	○		○	○
水	飯塚		○		○	○
木	太田	(予約制)	○		○	○
金	飯塚		○		○	○
土				○		○

医療福祉相談・連携室		
相談 受付時間	平日	9:00~12:00 13:30~16:30
	土曜日	9:00~12:00
	日・祝日	休み

老健あかねは、通所リハビリ・訪問リハビリ・短時間通所リハビリとの連携をしています。